

第1回アジア・太平洋水サミット開催概要

(雑誌「河川」2008年1月号に日本水フォーラム事務局が寄稿した内容を、2018年5月に時点修正等をしたもの)

2007年(平成19年)12月3、4日に大分県別府市において、「第1回アジア・太平洋水サミット」開催された。「アジア・太平洋水サミット」(以下、水サミット)は、2006年(平成18年)3月に第4回世界水フォーラムにおいて設立が宣言され、同9月に活動を開始したアジア・太平洋地域の水問題解決に向けてあらゆる水関係者による緩やかなネットワークである「アジア・太平洋水フォーラム」の活動の一環として、2~3年に一度開催されるものである。「第1回アジア・太平洋水サミット」は、世界初の水に関する首脳級会合である。その開催は、水問題の解決を加速し、ミレニアム開発目標を達成するには、科学的知見や事例・経験の共有などとともに、政治的なコミットメントが大きな役割を果たし得る、という考え方のもと、アジア・太平洋水フォーラムの設立と同時に提案されたものである。

- 「アジア・太平洋水フォーラム」と「アジア・太平洋水サミット」
- ・ 2006年3月にメキシコで開催された「第4回世界水フォーラム」に向け、アジア・太平洋地域からの提案を集約するという準備プロセスにおいて、特有の自然条件や文化を有するアジア・太平洋地域で「水問題解決に寄与する地域内の知識・経験をより効率的に共有すべきである」との共通認識が生まれました。そして、この地域の国連機関、政府組織、市民組織、地域開発銀行、研究機関等あらゆる水関係者の緩やかなネットワーク組織として「アジア・太平洋水フォーラム」が設立され、2006年9月より活動を開始しています。
- ・ アジア・太平洋水サミットは、「水問題の解決には、科学的・技術的解決策の共有・活用とともに、政治的な意志が不可欠である」という考え方のもと、政治的な決断を行う資格と能力のある方々を招き、2~3年に一度開催されるもので「アジア・太平洋水フォーラム」の活動の柱の一つとなっています。サミットは文字通り、頂点に位置する人々が議論し、決断を下すために行うものです。

初会合となった「第1回アジア・太平洋水サミット」は、「アジア・太平洋水フォーラムと」国内外の有識者からなる「第1回アジア・太平洋水サミット運営委員会」が主催し、「アジア・太平洋水フォーラム」の事務局を務める日本水フォーラムが、水サミットの事務局として、約1年間にわたる準備活動をリードした。

本水サミットには、日本を含むアジア・太平洋地域の10ヶ国・地域から首脳級が参加し、また閣僚級も32名参加し、技術的な見地からではなく、国の発展、政策といった観点からハイレベルな議論が展開され、参加者の決意や思いは『別府からのメッセージ』という形で閉会式において発表された。

以下に「第1回アジア・太平洋水サミット」の概要を報告する。

表1 第1回アジア・太平洋水サミットの概要

○日	時：2007年（平成19年）12月3日（月）、4日（火）
○会	場：別府国際コンベンションセンター(B-CON PLAZA)
○主	催：アジア・太平洋水フォーラム（APWF）／第1回アジア・太平洋水サミット運営委員会
○全体テーマ	水の安全保障：リーダーシップと責任
○参加国・地域	56の国・地域（うちアジア・太平洋地域からは40の国・地域）
○首脳級参加	10の国・地域から10名
○大臣級参加	32名
○アジア・太平洋地域からの閣僚級以上の参加	36の国・地域
○参加者数	アジア・太平洋地域の政府関係者231名（うち海外から226名）、招待出席者140名（海外から72名）、合計371名（海外から298名）
○開会式出席者	880人（海外から約300人）
○主な参加者	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国皇太子殿下 ・国連「水と衛生に関する諮問委員会」議長 オランダ王国ウィレム・アレキサンダー皇太子殿下 ・タジキスタン共和国 エマムアリ・ラフモン大統領 ・パラオ共和国 トミー・レメンゲサウ大統領 ・キリバス共和国 アノテ・トン大統領 ・ナウル共和国 ルドウィグ・スコティ大統領 ・ミクロネシア連邦 エマニュエル・モリ大統領 ・ニウエ ヤング・ビビアン首相 ・ツバル アピサイ・イエレミア首相 ・ブータン王国 キンザン・ドルジ首相 ・福田康夫内閣総理大臣 ・キルギス共和国 スル・ウル・ドスボル副首相
	※役職等は水サミット開催時
○その他	<ul style="list-style-type: none"> ・プレス：260名（海外から40名）、記者会見件数：16件、国内新聞記事掲載数：342件（12月1日～12月18日） ・運営支援のためのボランティア：約300名 ・通訳：28名 ・警察：約1,500名

表2 第1回アジア・太平洋水サミットプログラム

時間	12月3日(月)		時間	12月4日(火)	
			09:00-10:30	「2008年国際衛生年」の地域発進式	水と気候に関する島嶼国間対話 アラル海流域における水の安全保障確保のための約束-協力と競合
			10:30-10:50		コーヒーブレイク
11:00-13:00	開会式 - 開会挨拶：森喜朗 運営委員長 - おことば：皇太子殿下 - ご挨拶：福田康夫 内閣総理大臣 - アジア・太平洋水フォーラム（APWF）からの報告：トミー・コー執行審議会議長 - 基調講演：オランダ皇太子／国連水と衛生に関する諮問委員会議長 - ビデオメッセージ：潘基文 国連事務総長 記念講演 皇太子殿下		10:50-12:20		水関連災害管理（優先テーマB） 発展と生態系のための水（優先テーマC）
			12:20-14:00	昼食	
13:00-15:00	昼食		14:00-15:30	アジア・太平洋地域における水の安全保障確保のためのリーダーシップと人材育成、知識・経験の活用（優先テーマA・主要な活動の柱1）	地域の行動のための能力向上（主要な活動の柱2）
15:00-15:10	議長・副議長・書記の任命／アジェンダの採択		15:30-16:00	コーヒーブレイク	
15:10-16:40	首脳級参加者による講演		16:00-17:30	閉会式 - セッションからの報告 - 第5回世界水フォーラムへのご招待 - その他の地域から - 別府からのメッセージ・議長総括の発表 - 閉会にあたって：国土交通大臣 - 閉会挨拶：森喜朗 運営委員長	
16:40-17:00	コーヒーブレイク				
17:00-18:30	ヒマラヤ地域における気候変動、氷河と水資源	企業の水に関する最高責任者CEOの責任		水に関わる投資とその効果のモニタリング(主要な活動の柱4)	
18:45-	第1回アジア・太平洋水サミット 大分県委員会主催 歓迎レセプション		18:00-	第1回アジア・太平洋水サミット運営委員長主催 フェアウェルカクテル&夕食会	

【開会式】

第1回アジア・太平洋水サミットは、12月3日（月）11時より開催された開会式での、森喜朗 第1回アジア太平洋水サミット運営委員長による挨拶で幕を開けた。開会式会場を埋めた880名の聴衆は、開会までの時間、アジア太平洋放送連合（ABU、本部クアラルンプール）制作によるアジア・太平洋6ヶ国の水問題に関するドキュメンタリーを鑑賞した。

森委員長による開会挨拶では、世界の総人口の60%にあたる37億人が住むアジア・太平洋地域では、5人に1人が安全な飲料水を利用できず、また人口の約半数が適切な衛生設備を利用できない状況にあること、そして水災害による世界の死者の80%はこの地域で発生していることなど、アジア・太平洋地域が抱える水問題について触れられた。そして、水問題は単に「水」関係者にとどまらず、国のあり方そのものに大きな影響を与える要素であり、国家の首脳が先頭に立って取り組むことが肝要である、と第1回アジア・太平洋水サミット開催の意義を述べた。



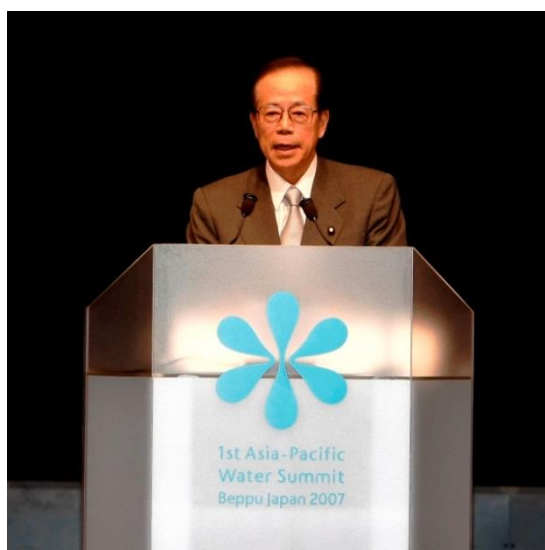
森委員長による開会のご挨拶

開会挨拶の次には、皇太子殿下よりお言葉を賜った。皇太子殿下は、お言葉の中で、潘基文国連事務総長の要請により、国連「水と衛生に関する諮問委員会」（UN Secretary-General's Advisory Board on Water and Sanitation; UNSGAB）の名誉総裁に就任されたこと、アジア地域における水と衛生の問題、水災害の問題について困難な状況にあることに言及され、世界の水と衛生の問題、水災害の問題について困難な状況にあることに言及され、世界の水と衛生に関する知見を広め、諮問委員会議長であるオランダ王国ウィレム・アレキサンダー皇太子殿下や委員と共に、力を合わせて活動に貢献したいとの決意を表明された。



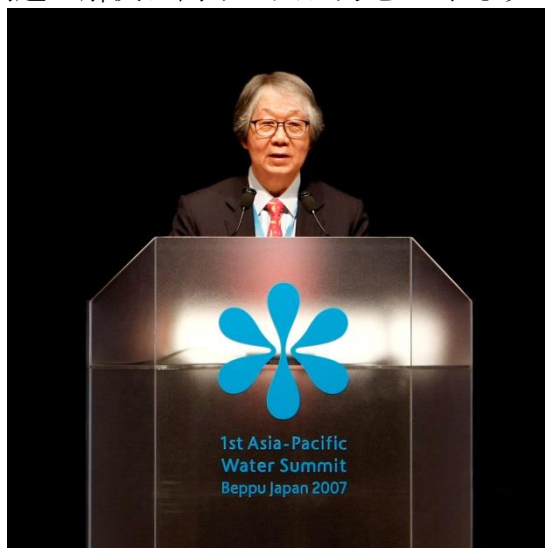
皇太子殿下のお言葉

続く、福田康夫内閣総理大臣のご挨拶では、日本は水分野における国際協力、とりわけ災害対策の面で長い歴史と豊富な経験を有していること、今年（2007年）5月に日本政府は、発展途上国が経済発展と温室効果ガスの削減の二つの目標を同時に達成できるよう、新たな経済支援の枠組みを構築したこと、そして第1回アジア・太平洋水サミットが、G8北海道洞爺湖サミット（2008年）に向けて、強力な推進力になることを強調し、水がG8の議題に取り上げられるだろうと述べられた。



福田内閣総理大臣のご挨拶

次に、トミー・コー アジア・太平洋水フォーラム執行審議会議長が、2006年9月の活動開始以来のアジア・太平洋水フォーラムの活動を報告するとともに、アジア・太平洋地域が直面する水問題の深刻さと、多くの国で行われている革新的な取組をまとめた『ポリシーブリーフ 2007（アジア・太平洋水フォーラムからの提言書）』の内容を紹介した。トミー・コー氏はまた、サミット参加者、特に各国のリーダーに、水を政治の最優先課題にするために一歩踏み出し、自らの責任を果たし、地域の水問題の解決に向けて共に力を尽くそうと呼びかけた。



トミー・コー アジア・太平洋水フォーラム執行審議会議長による活動報告

壇上転換後には、オランダ王国ウィレム・アレキサンダー皇太子殿下による基調講演、潘基文国連事務総長からのビデオメッセージ放映、皇太子殿下による記念講演が行われた。

オランダ皇太子オレンジ公は、農村と都市の両方において水問題を解決することは、経済成長を促す1つの重要な鍵であること、アジア・太平洋水フォーラムの優先テーマと UNSGAB の橋本アクションプランで指摘した6つの主要分野との関連性について言及した。



国連「水と衛生に関する諮問委員会」議長 オランダ王国ウィレム・アレキサンダー皇太子殿下による基調講演

潘基文事務総長はビデオメッセージの中で、特に気候変動との関わりにおいて地域の水問題の深刻さを強調し、水サミットの重要性と行動の約束の必要性を指摘した。



潘基文 国連事務総長によるビデオメッセージ

日本の皇太子殿下からは、第三回世界水フォーラムでの記念講演、第4回世界水フォーラムでの基調講演に続いて、今回の水サミットでも「人と水 ー日本からアジア太平洋地域へー」と題する記念講演を賜った。皇太子殿下のお言葉は、宮内庁のホームページに掲載されている。
(<http://www.kunaicho.go.jp/okotoba/02/koen/koen-h19az-mizusummit.html>)

【議長、副議長、書記の任命・アジェンダの採択】

開会式後、昼食の後には、本会議での議論が始まった。議長、副議長、書記の任命とアジェンダの採択が行われ、議長に森喜朗 第1回アジア・太平洋水サミット運営委員長、副議長に各サブ地域から、タジキスタン共和国 エمامアリ・ラフモン大統領閣下（中央アジア）、キリバス共和国 アノテ・トン大統領閣下（オセアニア・パシフィック）、ブータン王国 キンザン・ドルジ首相閣下（南アジア）、カンボジア王国 リム・キーン水資源・気象大臣（東南アジア）、中華人民共和国 フー・スーイー水利部副部長（北東アジア）の5名が就任した。また、書記には、アジア・太平洋水フォーラム執行審議会副議長であるエルナ・ウィットラー、ラヴィ・ナラヤナの両氏が任命された。

【首脳級スピーチ】

続いて行われた首脳級によるスピーチセッションでは、参加した9名の首脳級参加者がそれぞれの抱える水問題を述べた後、ユネスコの松浦晃一郎事務局長が総括を行った。以下に地域ごとに首脳級による発言の要旨を示す。

＜中央アジア：タジキスタン大統領、キルギス副首相＞

- ・ 自国経済が、とりわけ水関連災害に対して脆弱であると指摘
- ・ アラル海流域を含む水問題の解決のために協力して取り組む必要がある
- ・ 投資の拡大、特に老朽化した水インフラの修復のための投資拡大に、早急に目を向けなければならない

＜大洋州諸国：キリバス大統領、パラオ大統領、ナウル大統領、ミクロネシア大統領、ニウエ大統領、ツバル大統領＞

- ・ 国内には河川がなく、地下水資源も不安定であるため、水不足が避けがたい問題である
- ・ サミットを契機に資金・技術支援の約束が増えることを期待する
- ・ いくつかの島嶼国では、気候変動に関連して予測される海面上昇やサイクロンの増加が、国民の生命や生活を守るうえで主要な懸念となっている

＜ヒマラヤ地域：ブータン首相＞

- ・ 気候変動の影響により急速に氷河が後退し、氷河湖決壊による鉄砲水が下流域の住民に被害を及ぼす恐れがある



タジキスタン共和国
エマムアリ・ラフモン
大統領

副議長



パラオ共和国
トミー・レメンゲサウ
大統領



キリバス共和国
アノテ・トン
大統領

副議長



ナウル共和国
ルドウィグ・スコティ
大統領



ミクロネシア連邦
エマニュエル・モリ
大統領



ニウエ
ヤング・ビビアン
首相



ツバル
アピサイ・イエレミア
首相



ブータン王国
キンザン・ドルジ
首相

副議長



キルギス共和国
ヌル・ウル・ドスボル
副首相

【セッション】

第1回アジア・太平洋水サミットでは、アジア・太平洋地域を取り巻く水問題について10のセッションが開催された。以下に各セッションの概要を紹介する。

1. ヒマラヤ地域における気候変動、氷河、水資源

主催：国際総合山岳開発センター（ICIMOD）

概要：本セッションは、茨城大学の三村教授が議長を務め、皇太子殿下ご臨席の下、開催された。インドのソズ水資源大臣、中国のフー水利部副部長、山本国土交通大臣政務官、野口健運営委員による基調講演の後、プータン首相、ネパールのカルキ水資源大臣、水災害・リスクマネジメント国際センター（ICCHARM）の竹内センター長等によるパネルディスカッションが行われた。

議論の中では、近年、氷河後退が加速し、その影響が顕在化しようとしている事実に対して注意喚起がなされ、水資源に関わる気候変動とその影響を評価・モニタリングするために情報共有を進め、ヒマラヤ地域の各国間の協力の推進が不可欠であることが認識された。

2. 水に関する行動への最高経営責任者の責任

主催：国連グローバルコンパクト

概要：本セッションでは、主催者である国連グローバルコンパクトより、アジア・太平洋水シナリオが発表された後、幸田シャーミン国連広報センター所長の進行によるパネルディスカッションが行われた。ミクロネシア連邦大統領、世界水パートナーシップ（GWP）のキャトレイ・カールソン総裁、東京電力の田村会長など、アジア・太平洋地域で顕著な活動をしているピジネスリーダー10数名によるパネルディスカッションでは、アジア・太平洋地域のピジネスリーダーより、数多くの水に関する優良事例が示されると共に、地域のビジネスセクターへCEO水マנדートへの支持への呼びかけがなされた。

3. 水に関わる投資とその効果のモニタリング

主催：国連アジア太平洋経済社会委員会（ESCAP）

概要：本セッションでは、アジア・太平洋水フォーラムの主要な活動の柱（KRA）4のリード組織を務めるUNESCAPから、KRA4の検討結果と提言の紹介がなされたのち、UNESCAP、国連食糧農業機関（FAO）、アジア開発銀行（ADB）、世界保健機関（WHO）の代表等による提言に関する技術討論やKRA4の具体的な取り組みに関する討論が行われた。討論の結果、アジア・太平洋地域で蓄積された経験を、いかに緊急的ニーズである「投資とその効果のモニタリング」を政策へ反映し、「統合水資源管理」や「水と衛生」といった優先課題とモニタリングを結び付けていくべきことが示された。

4. 「2008 国際衛生年」の地域発進式

主催：国際協力銀行（JBIC）、UNESCAP、国連経済社会局（UNDESA）、国際連合児童基金（UNICEF）、世界保健機関（WHO）

概要：特別セッションとして開催された本セッションは、サミット参加者以外の一般市民も出席可能な唯一のプログラムとなった。セッションは、田波JBIC総裁、並木環境大臣政務官による開会挨拶によって始まり、オランダ皇太子オレンジ公による開始宣言後に、国連水関連機関調整委員会（UN-Water）、日本水フォーラム（JWF）、世界トイレ機関（WTO）による世界とアジア・太平洋における衛生に関するプレゼンテーションが行われた。JWFからは森喜朗会長がWater Web Project on Google Map / Earthとそのプログラムのひとつである世界衛生プロジェクトマップ（World Sanitation Project Map）の開始を宣言した。

続いて、政府及び公共部門から得た教訓について、各国・地域代表による発表が行われ、休憩を挟んだ後半には、パネルディスカッション形式で民間部門の役割、市民社会の役割についての議論が行われた。

セッションを通じて、「衛生」はミレニアム開発目標達成（MDGs）に向けた基礎であることが認識され、各国政府に対しては、地域の衛生に関する課題解決に向けた各種枠組みと協調しながら、UNSGAB 橋本行動計画のよりの確な実施に向けた取り組みの強化に関して呼びかけがなされた。また、洞爺湖サミットの議題に衛生を取り上げるよう日本政府へ要望がなされた。

5. 水と気候に関する島嶼国対話

主催：太平洋諸国応用地球科学委員会（SOPAC）、ICHARM

概要：本セッションでは、始めに島嶼国と気候変動に関するビデオ上映が行われた。引き続いて行われたパネルディスカッションは、SOPAC 理事長が議長を務め、キリバス大統領、サモアのアヴェアウ公共事業・インフラ・交通大臣、国連国際防災戦略（UN-ISDR）のプリセーニョ事務局長による議論が行われた。セッションでは、島嶼国における気候変動の影響に対する脆弱性、効果的な水資源管理の必要性に対する注意喚起がなされるとともに、「災害対応」から「災害リスク低減・災害管理」へのパラダイムシフトの必要性が議論された。

6. アラル海流域における水の安全保障確保のための約束：協力と競合

主催：アラル海救済国際基金（IFAS）

概要：本セッションでは、世界水会議（WWC）のフォーション会長による挨拶の後、IFAS 総裁であるタジキスタン大統領の基調講演が行われた。続いて中央アジアから参加した各国代表からのスピーチ、質疑応答での議論が行われた。議論の結果、各セクター（灌漑、水力発電、環境等）間の水需要の調整、特に国境をまたぐ河川を有する場合、の難しさが認識され、そのような課題に対応するには、関係セクター・国の間の協調が必要であるとされた。

7. 水関連災害管理

主催：ICHARM

概要：本セッションは、アジア・太平洋水フォーラムの優先テーマ B「水関連災害管理」のリード組織である ICHARM によって開催された。ICHARM センター長による「ポリシーブリーフ 2007」にまとめられたメッセージと提言、課題の紹介が行われた後、山本国土交通大臣政務官、インド水資源大臣、中国水利部副部長の 3 名が講演を行った。

その後、UNESCO、WMO、UN-ISDR、ADB の代表、虫明福島大学教授による発表、全体討論が行われたが、特に水関連災害リスク低減の国家開発計画への統合の必要性について集中的な議論がなされた。また、増大しつつある気候変動に伴うリスクへの適応を最優先事項として認識すべきであることを呼びかけられた。災害の女性への影響及び男女平等の視点からの適応策の必要性は緊急に対応すべき分野であるという意見も出された。

セッションの最後には、メッセージと提言が参加者によって採択された。

8. 発展と生態系のための水

主催：国際自然保護連合（IUCN）、国連食糧農業機関（FAO）

概要：本セッションは、アジア・太平洋水フォーラムの優先テーマ C「発展と生態系のための水」のリード組織である IUCN と FAO によって開催された。ネパールの水資源大臣による基調講演の後、「ポリシーブリーフ 2007」にまとめられた提言と課題の紹介が行われた。

続くパネルディスカッションでは、基調講演を行ったネパール水資源大臣やフィジーのチョウドリー財務大臣らが参加し、どのように長期的・他分野のニーズのために水を確保し、発展と環境の両面の便益を生み出していくかについて議論がなされた。議論の結果、地域で Win - Win の状況を生み出すために、地方の実施主体と統治の強化の重要性が認識された。また、発展のための政治的意思決定の重要性が認識され、提言を実現化するための新たな取り組みの開始が報告された。

9. アジア・太平洋地域における水の安全保障確保のためのリーダーシップ：知識、資金調達、人材育成

主催：ADB、シンカ・ポール PUB、ユネスコ、JBIC、国際協力機構（JICA）

概要：本セッションは、アジア・太平洋水フォーラムの優先テーマ A「水インフラと人材育成」のリード組織である ADB とそのパートナー組織である JBIC、JICA、主要な活動の柱（KRA）1 のリード組織であるシンガポール PUB、ユネスコによって開催された。

黒田 ADB 総裁、ラオスのポンセナー水資源・環境庁長官、ネパールのマハト財務大臣による基調講演の後、オランダ皇太子オレンジ公、冬柴国土交通大臣、フィジー財務大臣、プノンペン市水道公社のエク・ソン・チャン総裁、GWP 総裁によるパネルディスカッションが行われた。議論の結果、水への投資は貧困削減への投資であることが認識された。また、必要とされる下水、衛生、農業設備形成のため、政府と利用者間での適切なコスト配分や近年の経済成長によりもたらされた追加資源の投入等の様々な金融メカニズムについて議論がなされた。

10. 地域の行動のための能力向上

主催：国連人間居住計画（ハピタット：UN-HABITAT）、ストリームズ・オブ・ナレッジ（SOK）

概要：本セッションは、アジア・太平洋水フォーラムの主要な活動の柱（KRA）2 のリード組織である UN-HABITAT、SOK によって開催された。

基調講演と 3 つの発表の後、マリ・クリスティーン UN-HABITAT 親善大使がモデレーターとなり、インド水資源大臣、小嶋静岡市長、水とジェンダー連合のアーメド議長などによるパネルディスカッションが行われた。

本セッションでは、地域の能力向上に資する「能力開発ハブ」形成のための一連の具体的な取り組みが発表された。これらの取り組みは、様々な NGO、市民社会、地方自治体と連携しながら機能していく必要があり、APWF の 3 つの優先テーマ推進を支持するものである。

【閉会式】

会議 2 日目、12 月 4 日（火）の 16 時から閉会式が開催された。閉会式ではまず、各セッションの代表がその報告を行い、その後、水サミット以降の取り組みについて、WWC 会長、第 5 回世界水フォーラムのホスト国であるトルコ政府のアッカ氏によるスピーチが行われた。

続いて、今後の APWF、アジア・太平洋水サミットの他地域との連携可能性について、アメリカ地域を代表して、ブラジル水資源庁のプラガ長官、ヨーロッパ地域を代表して、ヨーロッパ水パートナーズのヨンクラウゼン理事がスピーチを行った。

次に、シンガポール PUB のチャイ長官より、第 2 回アジア・太平洋水サミットについて、2009 年 6 月のシンガポール国際水週間の開催の機会に、シンガポールとしてホストをすることを検討している旨の発表があった。

閉会式の最後には、書記のナラヤナン氏が議長総括の発表、同じく書記のウィットラー氏が『別府からのメッセージ』を発表した後、日本政府代表として冬柴国土交通大臣が挨拶を行った。

閉会式は、関係者への謝辞や水問題の解決に向けた参加者による今後の活動に対する期待を述べた森議長による閉会の辞で幕を閉じた。



閉会式の様子

別府からのメッセージ（仮訳暫定版）

我々アジア・太平洋地域のリーダーは、各国のあらゆる分野を代表し、温かいもてなしのもと、日本国大分県の美しい都市、別府において開催された記念すべき第1回アジア・太平洋水サミットに結集し、次のような合意に達した。

- 人々が安全な飲料水と基本的衛生設備を入手することは、基本的人権であり、人間の安全保障の基本であることを確認する。
- この地域において安全な飲料水を利用できない人々の数を、2015年までに半減し、2025年までにゼロを目指す。
- 現在ほど水を必要としない新しい、革新的な衛生システムを採用し、基本的衛生設備の利用できない人々の数を、2015年までに半減し、2025年までにゼロを目指す。
- 水と衛生を各国の経済・開発計画や政治課題における最優先課題とし、水と衛生分野への資金配分を大幅に拡充する。
- 特に貧困層に大きな影響を及ぼすゆえに、水管理に関するすべての面で、ガバナンス、効率性、透明性、公平性を向上させる。女性は社会的弱者である一方、粘り強い活力を有し、進取的である。従って、すべての水関連活動において、女性の能力を向上させなければならない。
- 洪水、干ばつ、その他水関連災害の発生を防止、削減し、犠牲者を適時に救援、支援できるように、早急に効果的な行動をとる。
- 気候変動の影響を受けやすい島嶼国における、生命・財産を守る取り組みを早急に支援する。
- ヒマラヤ山脈地域やパミール高原地域における冠雪・氷河の融解や、海面上昇等、地域の一部の国ではすでに気候変動の影響が現れている。水と気候変動の関係を議題に組み入れるよう、バリ会議に提言する。
- 2008年に開催されるG8北海道洞爺湖サミットに向けて、具体的な目標を設定する。
- 発展途上国がMDGsの水と衛生に関する目標を達成できるよう、支援を行う。
- 発展途上国による、気候変動への適応を支援するために、直ちに行動を起こす。
- 各国は、閣内にあるハイレベルの調整システムの権限を拡大する。可能な国では水担当大臣を任命し、水と衛生に関するすべての問題を統合的に扱う。
- 都市の水路網を修復し、及び農村地域の環境の健全性を保全するなど、この地域の水に育まれた社会の豊かな歴史を尊重する。
- 水の安全が保障されたアジア・太平洋地域という地域全体のビジョンを達成するために、志を一つにするすべての団体、個人が力を合わせて取り組む。

我々は、アジア・太平洋水フォーラムの仲間が作成したポリシーブリーフを支持する。

我々は、この提言の実施に向け、各国政府の努力を促す。

我々には、このビジョンを実現する意志と勇気がある。

【オープンイベント】

12月1日（土）～5日（水）の日程で、別府市他大分県内各地、また全国各地で第1回アジア・太平洋水サミットのオープンイベントとしてシンポジウム、セミナー、ワークショップ等の会議や、展示、エクスカージョンなどがさまざまな水関係者によって開催された。

開催されたオープンイベントは、会議形式のものが36、会議と展示を行ったものが3、展示のみが21、その他が7で計67件開催された。うち、大分県委員会は、ピーコンプラザ内のコンベンションホールに大規模な展示を行い、大分県内の水に関する取り組みの紹介を行った。

オープンイベントの主催者は、水サミット参加者に対してA4 1枚の「オープンイベントからのメッセージ」を提出することができ、提出されたものは、事務局によってまとめられ、水サミット参加者に配布された。

【NGO との交流】

12月2日（日）に、第1回アジア太平洋水サミット事務局は、アジア・太平洋水サミット市民会議との共催で、杉乃井ホテルにてNGOとリード組織、各分野の有識者が優先テーマごとに意見交換を実施した。意見交換会で得られた結果はアジア・太平洋水サミット市民会議実行委員会からのメッセージとしてまとめられ、サミット参加者に配布された。

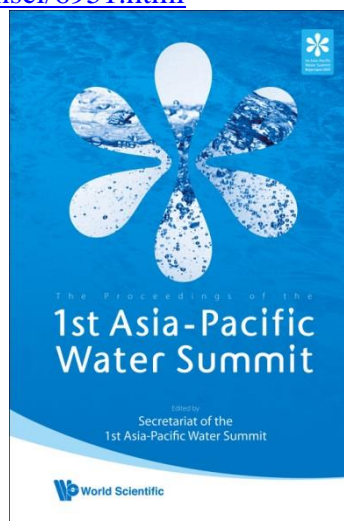
また、12月4日（火）の午前には、ピーコンプラザ臨時会議室においてNGOブリーフィングを開催し、第1回アジア・太平洋水サミット事務局よりサミット1日目の議論の内容を報告するとともに、今後の連携のあり方について議論した。

【さいごに】

第1回アジア・太平洋水サミットは、NGOであるアジア・太平洋水フォーラムが主催する首脳級の会議という、まさに前例のない状況で準備がスタートした。日本政府をはじめとした関係機関や個人の支援無しには、第1回アジア・太平洋水サミットの開催は不可能であり、関係各位に謝意を表す。

第1回アジア・太平洋水サミットの開催概要については、ホームページ <http://mv.v.waterforum.jp/jpn/summit/result/index.html> により詳しい情報を記載しているので、併せてご覧いただきたい。また、2008年3月に、「第1回アジア・太平洋水サミット最終報告書（英語版）（編集：第1回アジア・太平洋水サミット事務局）」が World Scientific Publishing より出版されている。

<http://www.worldscibooks.com/environsci/6951.html>



「第1回アジア・太平洋水サミット最終報告書（英語版）」